

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

				コード	614-01-01	
事務事業名		図書館運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課		連絡先		072-950-5501
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1 一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10 教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5 社会教育費
					目	9 図書館運営費
対象(誰を・何を)		羽曳野市在住・在勤・在学者、及び広域連携自治体住民				
目的(どうしたいか)		多様な資料や情報を収集して地域住民の皆様の課題解決を支援し、知的で心豊かな住民生活に寄与することを目的とする。				
手段(事業内容)		市内6館、及びブックステーション1室で資料(情報)提供を中心にリクエストサービス、レファレンスサービス、障がい者サービス、学校図書館支援事業、各種集会文化活動、ステーションライブラリーや、広域貸出サービス等を行っている。				

事業費

単位：千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	47,846	47,085	46,304
人件費	116,689	114,644	106,429
総事業費	164,535	161,729	152,733
うち市負担分	164,535	161,729	152,733

30年度決算主な内訳
【事業費】 システム保守料：1,582千円 図書資料費：17,200千円 業務委託料：16,874千円
【特定財源】

活動指標

指標名	資料貸出冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に個人貸出した冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	877,227	858,145	880,000

参考数値
貸出人数 H27 227,599人 H28 231,743人 H29 230,073人 H30 228,039人 市民一人当たりの貸出点数 7.7冊

成果指標

指標名	市民一人当たりのサービス効果	単位	円
指標の説明	貸出図書を個人が購入したと仮定し、そこから必要経費を差し引いた分を市民の利益とする指標		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	10,721	10,317	11,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 インターネット予約の比率は60%を超えしっかりと定着してきました。また、広域利用も全体の15%を占めるまでになり、周辺地域住民の情報提供の拠点として機能しています。しかしながら、人口減や少子化などもあり、全体的な利用人数・冊数は漸減傾向にあります。開架図書資料の新鮮さが失われていることもひとつの大きな要因であり、未利用者の開拓とともにさらなる利用を進めていく上での課題といえます。 今後も地域の問題や課題解決のためのサポートができるよう、職員の資質向上に努め、信頼され、魅力ある図書館として業務を進めてまいります。

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

				コード	614-01-02		
事務事業名		ブックステーション管理運営事務事業			事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課			連絡先	072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち		予算科目	会計	1 一般会計
	施策	1	生涯学習			款	10 教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実			項	5 社会教育費
						目	9 図書館運営費
対象(誰を・何を)		地域住民					
目的(どうしたいか)		図書館から離れた地域の方々にも、読書環境を提供する。					
手段(事業内容)		はびきのコロセアム内に、”ブックステーションはびきのコロセアム”を週3日午後から開設し、資料の貸出しや情報の提供を行う。					

事業費

単位：千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	36	36	39
人件費	2,314	2,587	2,537
総事業費	2,350	2,623	2,576
うち市負担分	2,350	2,623	2,576

30年度決算主な内訳
【事業費】 ブックステーション施設管理(電話料)：36千円
【特定財源】

活動指標

指標名	資料貸出冊数	単位	冊
指標の説明	ブックステーションはびきのコロセアムの個人貸出冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	8,598	8,213	8,700

参考数値
1回開設当たり利用冊数
H27 65冊
H28 68冊
H29 65冊
H30 60冊

成果指標

指標名	ブックステーション利用者利用金額	単位	円
指標の説明	ブックステーション利用者が本を購入したと仮定した利用者一人当たりの購入費用		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	4,603	4,587	4,700

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部署が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 規模の大きな図書館から離れた地域の方々へのサービスとして、欠くことのできないものとなっています。ブックステーションはびきのコロセアムを開設している場所は、選挙の際期日前投票所として使われるため、選挙のある年は、その間閉館することになり継続的なサービスができないことが課題です。

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

		コード		614-01-03	
事務事業名		ステーションライブラリー管理運営事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課		連絡先 072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	1	生涯学習		款 10 教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項 5 社会教育費
					目 9 図書館運営費
対象(誰を・何を)		主に、古市駅・高鷲駅を利用する地域住民			
目的(どうしたいか)		自由で豊かな読書に親しんでもらうとともに、図書館の利用につなげる。			
手段(事業内容)		市民からの寄贈本を再活用し、駅に設置の本棚に定期的に本を補充するとともに、魅力的な棚づくりに勤める。また、令和元年度に世界遺産となった、百舌鳥・古市古墳群の情報なども発信していく。			

事業費

単位：千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	0	0	0
人件費	345	708	481
総事業費	345	708	481
うち市負担分	345	708	481

30年度決算主な内訳
【事業費】
【特定財源】

活動指標

指標名	資料補充回数	単位	回
指標の説明	1年間に資料の補充を行った回数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	80	108	160

参考数値
駅の本棚への寄贈冊数
H27 554冊
H28 432冊
H29 702冊
H30 646冊

成果指標

指標名	資料補充冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に資料を補充した冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	4,064	6,530	7,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 駅利用者の方々の通勤途上などに気軽に読書に親しんでいただけるよう、古市・高鷲両駅に”ステーションライブラリー”と称して本棚を設置しています。市民の方々からの寄付の資料で運用しています。定期的な見回りや本の補充で良好な環境の保持に努めています。

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

		コード		614-01-04	
事務事業名		大学図書館との連携推進事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課		連絡先 072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	予算科目	会計 1 一般会計
	施策	1	生涯学習		款 10 教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項 5 社会教育費
					目 9 図書館運営費
対象(誰を・何を)		羽曳野市在住・在勤・在学者			
目的(どうしたいか)		市民の利便性の向上と、情報提供範囲の拡大を目的とする。			
手段(事業内容)		四天王寺大学との間での連携協定に基づき、資料の借用や学生の受入れ・交流・情報提供・業務の連携を行う。			

事業費

単位：千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	0	0	0
人件費	453	1,736	1,327
総事業費	453	1,736	1,327
うち市負担分	453	1,736	1,327

30年度決算主な内訳
【事業費】
【特定財源】

活動指標

指標名	事業連携回数	単位	回
指標の説明	大学図書館との業務連携回数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	8	32	36

参考数値		
相互貸借冊数(自治体間貸出も含む)		
	(貸出)	(借用)
H27	3,424冊	3,736冊
H28	3,427冊	3,976冊
H29	3,390冊	3,999冊
H30	4,000冊	4,206冊

成果指標

指標名	大学図書館資料借用冊数	単位	冊
指標の説明	四天王寺大学図書館からの資料借用冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	8	18	25

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 利用者からリクエストされた資料で、市内図書館に所蔵のない資料は、大阪府立図書館や他市図書館から相互貸借制度により、資料を借用し利用者に提供していますが、専門的な分野において公立図書館では所蔵し得ない資料で大学図書館に所蔵のあるものを借用し、要望に応えられます。平成30年(2018年)1月から館外への貸出が可能となりました。

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

				コード	614-02-01			
事務事業名		子ども読書活動推進事業			事務の種類			
					自治事務(任意のもの)			
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課			連絡先			
					072-950-5501			
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち		予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習			款	10	教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実			項	5	社会教育費
						目	9	図書館運営費
対象(誰を・何を)		子ども(おおむね18歳以下の者)と子どもに関わる大人						
目的(どうしたいか)		子どもが読書に親しむ機会を提供し、子どもの健やかな成長に資することを目的とする。						
手段(事業内容)		資料の整備充実を図り、家庭・地域・学校が連携し市全体として取り組みを行う。また、子どもの読書活動への理解と関心を深めるため、啓発・広報活動を行う。						

事業費

単位:千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	5,652	5,426	5,660
人件費	4,433	4,351	5,288
総事業費	10,085	9,777	10,948
うち市負担分	9,972	9,589	10,948

30年度決算主な内訳
【事業費】 資料費(児童書):5,238千円 庁用器具費:188千円
【特定財源】 平成30年度大阪府新子育て支援交付金(子育て支援(市町村計画)粋事業):188千円

活動指標

指標名	児童書購入冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に購入した児童書冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	3,840	3,738	3,800

参考数値
児童書(団体)貸出冊数
H27 45,637冊
H28 47,936冊
H29 42,690冊
H30 46,400冊

成果指標

指標名	児童書貸出冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に利用のあった児童書冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	362,331	343,287	348,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 平成19年3月策定の「羽曳野市子ども読書活動推進計画」及び平成26年1月策定の「第2次羽曳野市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの豊かな読書活動のための環境整備に努めていますが、受入れ側の人的態勢不足や運搬体制の確立に課題があります。 また、年々、大阪府の子育て支援交付金が激減し、市の予算だけでは購入冊数の増加が見込めないため、資料費の確保も課題となっています。 なお、令和元年度中には、羽曳野市子ども読書活動推進委員会において「第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画」を策定し、進行管理していく予定です。

令和元年度羽曳野市事務事業評価シート(平成30年度実施事業)

				コード	614-02-02	
事務事業名		学校図書館支援事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		教育委員会生涯学習室 図書館課		連絡先	072-950-5501	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1 一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10 教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		項	5 社会教育費
					目	9 図書館運営費
対象(誰を・何を)		幼稚園児・保育園児・小学生・中学生・高校生と先生				
目的(どうしたいか)		子どもたちへの豊かな読書環境の提供を行う。				
手段(事業内容)		図書館が、学校図書館等読書支援センターとして、授業等で必要な資料の購入と、計画的な資料の提供を行う。”たけのこくんブックボックス”(1クラス50冊程度)を希望のクラス・学校へ届ける。				

事業費

単位: 千円	29年度決算	30年度決算	令和元年度当初予算
事業費	50	0	0
人件費	6,483	6,443	6,067
総事業費	6,533	6,443	6,067
うち市負担分	6,533	6,443	6,067

30年度決算主な内訳
【事業費】
【特定財源】

活動指標

指標名	学校等連絡車運行回数	単位	回
指標の説明	1年間に学校連絡車及び図書館から直接貸出車が運行した回数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	144	153	160

参考数値
学校等への総貸出冊数
H27 26,003冊
H28 26,694冊
H29 26,056冊
H30 29,861冊

成果指標

指標名	学校等図書館貸出冊数	単位	冊
指標の説明	学校図書館及び幼稚園・保育園等に学校連絡車及び図書館から直接運んだ冊数		
指標データ	29年度実績	30年度実績	令和元年度目標(見込)
	26,056	29,861	32,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 中央図書館内に「学校図書館支援センター」の機能を持たせ、よく利用される分野の本をセット資料として図書館で購入し、各校有効に利用できるよう調整したり、学校から依頼のあった資料や、テーマに即した資料を図書館が選定し、週2回配送便で市内各小中学校に届けています。学校のカリキュラムは同じように進んでいくため、同時期に同じジャンルの資料が必要となり、調整が難しいことと、そのための資料購入費の確保が課題となります。 また、要望に答えて、幼・保も含め、学校連絡車以外に、直接図書館から、学期ごとに定期的に本の貸出を行っており、ニーズの高まりにより、年々増加傾向にあります。